藤戸タイムズ

2023年7月7日
天城小学校
6年北村拔乃

～源平合戦～ 藤戸合戦

藤戸周辺は昔、小さな島が点在する海だった。そんな藤戸に八百年ほど前、「源平合戦」として知られている源氏と平家の戦いがあった。

全国的に展開された源平両氏による戦乱は、治承四年(二八〇年)に始まり、建久元年(二九〇年)に奥州藤原氏の滅亡までの十年間にもわたって起こった。藤戸でも戦乱(源平合戦)が寿永二年(二八四年)十二月にあった。また、藤戸にはその頃からの多くの史跡が現在も残っている。

藤戸寺はどんな所？

藤戸合戦は佐々木盛綱という人物により、源氏方の勝利となった。しかし本来源氏は海に囲まれているため不利であった。そのため、佐々木盛綱は地元の若い漁夫に浅瀬の場所を聞き、藤戸海峡を渡って先陣をとげる準備を進めた。すると、盛綱は自分の手柄のための口封じとして漁夫を刺し殺してしまう…。

戦いに勝った恩賞として得た藤戸の地に赴任した盛綱は、藤戸寺で源平両軍の戦死者と自分が殺めた漁夫の霊を弔うため大法要を営んだ、といわれている。

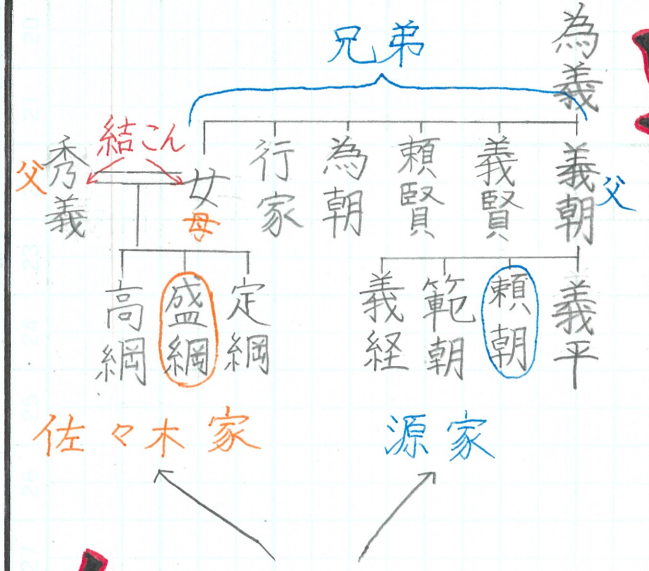
境内には、県指定重文石造五重塔がある。

～経文がうまった島～ 経ケ島

佐々木盛綱が営んだといわれている、藤戸寺での大法要をしたときに、書写した経をこの小島に埋めて経塚を建てたことが名前の由来とされている。また、経ヶ島の頂上には、源平両軍の戦没者の霊を慰める高さ一四〇cmの宝筐印塔と若い漁夫の霊を祀る供養塔があり、塚の下には、備前焼のカメが埋めてあるといわれている。

藤戸寺の境内だった！

・コラム・ 源頼朝と佐々木盛綱はいとこだった!?



血がつながっている!!

＜あとがき＞

平安・鎌倉時代の歴史に名を刻む争いを真近に感じることができることをありがたく思いました。また、このような歴史的なものは一度失うと二度と戻らないので、この新聞をきっかけに自分の町のほこりを後世に伝えて守っていきたいです。